



**2020年度
県立高校入試問題分析
【茨城県】**

開 倫 塾 教 務 部

～ はじめに ～

2020年度入試の出題傾向・2021年度入試へ向けて

1. 2020年度入試の出題傾向

県立高校入試問題は、基本的には中学校の教科書内容から各教科とも各分野からバランス良く出題されています。しかし、出題の傾向が変化することにより解答することが難しくなる場面が出てきます。今回の2020年度入試では、全体的に出題傾向が昨年と比べて大きく変化しました。例えば、群馬県国語の作文、栃木県国語の作文や社会・英作文、茨城県数学などがあります。出題の変化に戸惑う受験生もいたのではないのでしょうか。

近年の入試傾向では、ただ単に基本的な知識を問うのではなく、覚えた知識を活用して問題を解決していく問題が目立つようになりました。問題文を正確に読解したり、資料やグラフ・実験結果などから情報を読み取ったりしながら解答させる問題が増えてきました。また、国語以外の教科においても、登場人物の会話文を読みながら解き進める形式も出題されました。

各教科とも問題数が大幅に増加したわけではありませんが、必要な情報を速くかつ正確に読み取る力（読解力）が重要であることは言うまでもありません。

2. 2021年度入試へ向けて

2020年度入試は、各県各教科で出題形式に変化が見られました。おそらく今回の入試である程度の形式変化がありましたので、2021年度入試は今回ほどの大きな変化はないかも知れません。しかし、過去の傾向にこだわり過ぎて対策をしていると更なる変化があったときに戸惑ってしまいます。「絶対にこれは出ない」とか「絶対これが出る」という決めつけは危険です。

まず、教科書の基本的な知識を覚えることや計算問題練習を確実にすることが重要です。分からない語句や英単語は自分で辞書を活用して調べましょう。更に参考書や問題集も使い応用力も養う必要もあります。また、新聞記事などからその記事を書いた記者の主張を読解する練習も、読解力を身につけるためには効果があります。開倫塾模擬テストや塾以外の模擬テストで間違えた問題の解き直しもお勧めします。「分からない問題」を「分かる」に変えてこそ得点が上がります。

そして入試が近づいてきたら、各県の過去数年分の問題を繰り返し練習することが、得点力向上のために非常に重要であり効果が上がる受験勉強です。

教務本部長 岡部正行

2020年度 県立高校入試問題分析表

【茨城県】

教科	国語	大問数	4問	試験時間	50分	担当:松枝拓也
----	----	-----	----	------	-----	---------

入試問題分析と講評

- ・問題傾向は昨年とほぼ変わらない形式だった。難易度は標準～やや難。
- ・どの問題にも授業内容を模した問題があるため、日ごろから話し合い活動や、資料を活用し文字数を意識した表現の学習が必要と感じた。

大問別分析

(大問1)「朽木祥 月白青船山 より」

- ・小問4題，45字程度の記述6点，人物把握の問題4点，漢字の書き3点×3，心情理解の問題4点×2 計27点
- ・登場人物の心情の読み取りが45字以上50字以内で，心情を読み取りつつ理由を答える問題は，文字数が多い中でポイントも多く，端的にまとめる文章力が必要。
- ・昨年から加わった何箇所かある答えから1つを選ぶ問題は，標準的な難易度。

(大問2)「細川英雄 対話をデザインする－伝わりとはどういうことか より」

- ・小問5題，45字程度の記述6点，漢字の読み2点×3，接続詞・副詞の挿入，内容把握，空欄補充などの読解問題5点×3 計27点
- ・内容理解が中心。40字以上45字以内で，筆者の主張を述べる問題は，直接的な答えは書かれていないものの，与えられた語句から導き出せるので標準的な難易度。
- ・文章の容量も標準的で，テーマは広いが，表現が比較的平易なものが選ばれていると感じる。

(大問3)「山田富士郎 アビー・ロードを夢見て より」

- ・小問6題，行書の特徴3点，品詞問題3点，空欄補充3点×2，内容把握4点，感想文の空欄補充4点 計21点
- ・2つの短歌が出題され，鑑賞文の内容だけでなく文法や知識も問われた。

(大問4)

- ・小問5題，作文10点，現代仮名遣いに直す問題3点，熟語の構成・内容把握・空欄補充の問題各4点 計25点
- ・大問4では，古文の読解とグループの話し合いをもとに自分の立場と理由付けを表現することが求められた。

新傾向や注意すべき問題

記述力重視の傾向がより強まっているため，設問の条件に合わせて端的に文章をまとめる力が必要とされる。

2021年度入試への対策

語句知識・論説文・小説随筆・古典・作文と，さまざまな出題分野があるため，すべての分野にバランスよく取り組む必要がある。また，作文出題に備えて，「自分の意見」と「そのように考える理由」をまとめる練習をしておいたほうがよい。

2020年度 県立高校入試問題分析表

【茨城県】

教科	社会	大問数	4問	試験時間	50分	担当:川内悠
----	----	-----	----	------	-----	--------

入試問題分析と講評

大幅な改定によりずいぶん難しくなった。主の原因は2つ。

① 記述問題の増加。全部で15問、配点は54点

(2019年は7問・20点、2018年は3問・12点)。

② 資料を分析する問題の増加。全部で19問、配点は61点(2019年は11問・26点、2018年は9問・22点)
これらの2つにより時間が足りなかった生徒が多いと思われる。しかし、深い知識を問う問題はなく、重要語句をおさえておけば解ける問題もある。県立中高一貫校の適性検査に似たような問題である。予想平均点は40～45点。

大問別分析

【大問1】地理分野 配点26点 問題数(解答数)は10問。そのうち、資料読み取り問題が6問、配点は18点。これらからわかるように、知識の詰め込みだけでは解けない問題が多い。知識を入れたうえで、さらに資料の分析力と解く速度が必要である。資料は、地形図・促成栽培・雨温図・工業地帯など、頻出で読み取りやすい資料が多い。

【大問2】歴史分野 配点23点 問題数(解答数)は9問。そのうち、資料読み取り問題が3問、配点は11点。地理に比べたら資料や記述問題が少なく、やや解きやすい問題である。資料は元寇・有権者数の移り変わりなど、頻出のものである。例年は文化史や並び替え問題が出題されていたが、今年度は全く出題されていない。世界史は1問のみ。

【大問3】公民分野 配点23点 問題数(解答数)は9問。そのうち、資料読み取り問題が4問、配点は11点。歴史分野と同様に、地理に比べたら資料や記述が少なく、やや解きやすい問題である。政治・経済ともにバランスよく出題されている。時事問題は出題されていないが、2018年の平均労働時間やワークライフバランスなど、現代の社会事情についての問題は出題されている。

【大問4】総合問題 配点28点 問題数(解答数)は10問。そのうち、資料読み取り問題が7問、配点は21点。10問中、8問が地理分野、2問が公民分野であり、すべての問題が社会事情についてである。当然ではあるが、教科書に記載されている内容である。すべての大問の中で最も難しいと思われる。世界遺産・観光客数・国内総生産など、あまり見慣れない資料が多い。直接請求権による計算問題も出題されている。

新傾向や注意すべき問題

前述したように、記述問題・資料分析問題が昨年度の2倍以上に増えた。そのため、知識の詰め込みだけでは解けない問題が多くなり、一問一答形式のテキストだけ使用する勉強だとほとんど点数が取れない。また、読み取るスピードがないと時間内に解き終わらない。

2021年度入試への対策

「記述問題の書き方」と「資料の読み取り方」を身につけることが必要である。そのためには、昨年度の土ゼミで使用した教材のような、

記述問題と資料読み取り問題に特化した教材を多く解くことが必要である。おそらくではあるが、学校の授業では「記述問題の書き方」と「資料の読み取り方」を身につけるような指導はほとんどしないため、受験対策は今まで以上に塾での指導が必要となってくると思われる。夏期講習くらいからそのような対策をしていくべきである。また、中3生の生徒と保護者には3～4月のうちに今年度の問題について伝え、塾での勉強が必要であることを知ってもらおう。

2020年度 県立高校入試問題分析表

【茨城県】

教科	数学	大問数	6問	試験時間	50分	担当:伊藤修
----	----	-----	----	------	-----	--------

入試問題分析と講評

問題構成や傾向ともに変更され、大問数は8から6になり、単純な計算技能を問う問題が出題されなかった。既習事項を、「覚えているか」ではなく「活用できるか」に主眼を置いた出題内容だった。出題形式は変わったが、1問1問を見れば易～標準。

大問別分析

- (大問1) 小問4題, 4点×4題 = 16点。各単元の基本的な知識を問う問題。従来の立式された計算問題ではなく、問題文から自身で立式して解答する形式。コンパスを使用する作図も出題されたが、難易度は易。
- (大問2) 小問4題, 6点×4題 = 24点。方程式の立式2題, 関数1題, 確率1題。4題とも基本知識を問う問題で、難易度は易。
- (大問3) 小問3題, 4点 + 5点 + 6点 = 15点。平面図形で、求角, 合同の証明, 相似を利用して長さを求める問題だった。求角と証明は易, 長さを求める問題は、条件の把握と相似な図形を見つけられるかがカギでやや難。
- (大問4) 小問3題, 4点 + 5点 + 6点 = 15点。関数で、立式1題と、グラフから2式を比較し答える問題2題。問われていることを理解し、2つの関係を正確にとらえられるかどうか。立式は易, 2式の比較は2題とも標準レベル。
- (大問5) 小問3題, 4点 + 5点 + 6点 = 15点。資料の分析と活用で、用語の意味を理解し求める問題2題, 問題理解に基づく表現力を問う記述問題1題。用語理解の2題は易, 記述は問題文に書かれている説明に際しての条件をすべて満たすように表現できるかがポイントでやや難。
- (大問6) 小問3題, 4点 + 5点 + 6点 = 15点。空間図形で、投影図と三平方の定理に対する基本的な理解を問う問題と、立体の体積を求める問題。投影図と三平方の基本は易, 体積を求める問題は難。

新傾向や注意すべき問題

コンパスを使う作図と記述の問題。

2021年度入試への対策

単純な計算はできて当たり前という前提で、「問題文を正確に把握する」「与えられた条件の下で問われていることに正しく解答する」ための練習が必要。高校数学同様、解答に到るまでの過程を重視して、日頃の学習を進めていく。

2020年度 県立高校入試問題分析表

【茨城県】

教科	理科	大問数	6問	試験時間	50分	担当:佐久間和之
----	----	-----	----	------	-----	----------

入試問題分析と講評

数学や社会ほどではないが、理科も出題傾向が多少変わった。難易度としては例年とさほど変わらないが、過去問題集等で傾向分析をしていた受験生は手を焼いたかもしれない。

中1の出題範囲からは12問・33点分出題された。中2の出題範囲からは7問・25点分、中3の出題範囲からは16問・43点分だった。多少の変動はあるが、例年通りの割合である。

しかし、いわゆる応用問題と言われる【論述】【計算】【作図】の問題に注目すると、【論述】は2019年度入試は4問・16点分だったのが、2020年度入試は5問・18点分と微増した。【計算】は2019年度入試は2問・6点分だったのが、2020年度入試は5問・15点分と2.5倍にも増えた。逆に【作図】は2019年度入試は1問・4点分だったのが、2020年度入試は0問・0点分だった。【論述】【計算】【作図】を合計すると、2019年度入試は7問・26点分だったのが、2020年度入試は10問・33点分となり、約1.4倍にも増大した。

これは大学入学共通テストから続く全国的な傾向であるため、今後もこの傾向は続いていくと思われる。

大問別分析

大問1…例年通り、小問が物化生地地の4つ、それぞれア・イ・ウ・エの選択問題。しかし、それぞれの小問の文章が長くなっている。読解力が問われるほどの文章量ではないが、それぞれの文章を丁寧に読み解く力も必要とされる。

大問2…例年との出題傾向が大きく変わった。(1)(2)(3)がそれぞれ物化生地複合問題になっている。それぞれの小問の難易度はさほど高くはないが、このような問題になれていない受験生が多いため、苦労したところかと思われる。特に(2)では動滑車を2つ利用した問題が出題された。近年の動滑車は1つだけの問題が多く、「力の大きさは半分、動かす距離は2倍」を暗記していた受験生も多かったかと思われる。

大問3〔化学電池〕…全国的によく出題される標準的な問題であった。

大問4〔メンデルの実験〕…同上。

大問5〔電流による発熱〕…同上。ただし、文章量が多いため、難易度は高い。

大問6〔地震〕…テレビのニュース速報から問題に発展した。また(5)は「地震」から「運動エネルギー・弾性エネルギー」の問題が出題された。中1の教科書ではなく、中3の教科書に記載がされている内容である。

新傾向や注意すべき問題

上記のとおり、以前のような一問一答の問題は段々と少なくなって、大学入学共通テストのような読解力・記述力が問われる問題が多くなると予想できる。

2021年度入試への対策

日頃から新聞やニュースを読む習慣を身に着けること。毎日の学校の勉強を大切にすること。まずは教科書をしっかりと読むこと。読解力と記述力を身に着けること。

2020年度 県立高校入試問題分析表

【茨城県】

教科	英語	大問数	6問	試験時間	50分	担当:田中雅典
----	----	-----	----	------	-----	---------

入試問題分析と講評

他教科が動揺している中、英語はそこまで大々的な変更は見られず。ただ、やはり英語を苦手とする塾生にとっては、果たしてどこの問題の対策をすればよいのかという疑問が今年も残る問題形式となった。

大問別分析

- 大問 1 リスニング。前年度と比較して、英語で解答する問題が出題されたので、そのぶん多少難易度は上がったが、おおむね例年通り。
- 大問 2 語形変化と適語補充。難易度は例年通りもしくは例年より易しい。基本的な文法事項や熟語の知識があれば得点はできるであろう。
- 大問 3 英文新聞記事の伝えている内容などを問う問題。出題傾向が大問ごと変わったが、難易度はさほどではなく、基礎的な英語力で対応できると考えられる。
- 大問 4 英語の表を示し、その資料を参考にしながら英文を読み、適する内容の記号を選択する問題など。例年とさほど変化なし。しっかりと資料を読み取る力が求められるが、確認不足・読み落としなどに気をつければ対応できる問題であろう。
- 大問 5 長文問題。長文の内容に関する英作文が新傾向として登場。総合的な力が求められるため、ある程度以上の英語力が必要であろう。特に英語はリスニングで特定の時間が消化されてしまうので、時間との兼ね合いを考えると、速読の訓練が重要だと考えられる。
- 大問 6 英作文。中文を読ませて、それに対する返答を30語以上で答える問題。まずしっかりと中文を読み取る必要があるため、難易度は高い。

新傾向や注意すべき問題

「英文を読んで（聞いて）英文で答える」形式が多く見られた。

2021年度入試への対策

英作文への対策をすべきである。一朝一夕にどうにかなるものではないので、普段から英作文に積極的に取り組む必要がある。具体的には、毎回の授業の確認テストなどの機会に1問もしくは数問取り組ませたり、宿題として例文を暗記させたりといった対策が考えられるだろう。

